

高島縁人 登録証の送付

高島縁人の皆さま

令和2年3月4日
高島市総合戦略課

高島縁人にご登録いただいている皆さまに、感謝の気持ちを込めて「縁人登録証」をお送りいたします。

高島縁人の一年間と今後の展開

様々なまちと高島を“つなぐ”ことを目的に、大阪（2018年12月）と東京（2019年2月）で動き始めた高島縁人は、何度かのミーティングを経て、食と人をテーマとした高島ツアーや、ヴォーリス建築の再生などまちづくりへの参加を通じて、少しずつ、確実に動き始めています。来年度は新たなプロジェクトも加わり、より多様な“つながり”が生まれるよう活動してまいります。

- 高島とつながる（アウトドアなど新たなテーマ）
- 高島で働く（市内企業との兼業の試行）
- 高島“サトパス”ツアー、○ 大阪や東京でのミーティング開催



高島縁人登録証の制作

『登録証は、高島の「ケヤキ材」と高島の「技」で作られています。』

登録証を持って高島にお越しください

高島市内で登録証をお見せいただくと、様々な特典がある仕掛けを現在計画中です。内容等は、決まり次第、改めて高島市役所からのメール等でご案内いたします。

登録証は高島産のケヤキで10mmの厚さをもち、自然系の塗料で仕上げています。（裏面参照）首かけ紐は仮です。お気に入りのものと交換ください。



高島縁人のロゴ入り

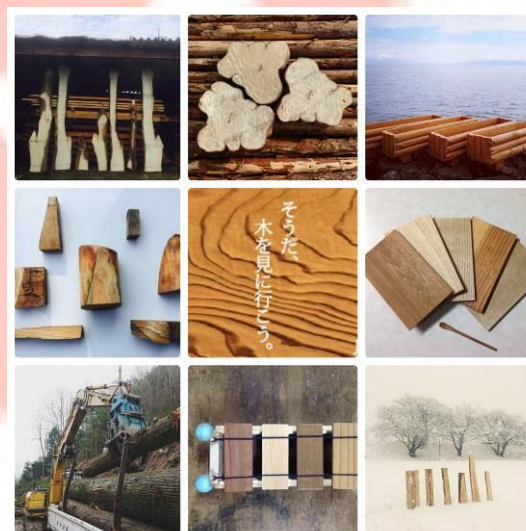


登録番号と御氏名

高島産ケヤキ材の活用

ケヤキは神社の社木として、また街の街路樹などにも多く植えられています。材料としては耐久性、耐湿性に優れていて、良材として高く評価されています。建築材としては社寺建築、民家の大黒柱や梁などに使われてきました。また、家具や工芸品にも使われていて幅広く用いられています。

材としては、独特の力強く美しい木目が特徴的です。材の仕上がりは艶がでて、品があり高級感があります。木によりますが、木の癖で大きく反ったり、曲がったりするので、何年も寝かせて乾燥させてからでないとう使えません。



写真提供：岡本木材

登録証を制作いただいた方々

全体制作／岡本木材株式会社 岡本 顕典

林業地として歴史と文化が残る高島市。その高島市にある安曇川町の琵琶湖沿いで製材所を営んでいます。製材業と言う仕事を毎日していくなかで日々思うことは、木にはたくさんの種類があり、それぞれ生きていて、個性があるということです。まっすぐだったり、曲がっていたり。かたちや香り、木目にも特徴があります。ほかでは見かけないような製材所ならではの、個性豊かな木を実際に見ていただいて、使い道を一緒に考えていたら、木はもっと楽しくなると思います。

私たちの会社では、木の持つ魅力を伝え、たくさんの人に木に親しんでもらい、生まれ育ったこの高島で人と木をつなぐ、『ひらかれた製材所』を目指しています。一度、製材所に足を運んでみてください。きっと新しい木の魅力を知っていただけるはずです。

〒520-1233 滋賀県高島市安曇川町南船木 913-1 TEL/0740-34-0068



岡本 顕典

木工担当／^{そう ぼう} 船房 Soubou craft 山本 雄次

気がつけば来年2月で開業して6年の月日が経とうとしています。この自然豊かなマキノに腰を据えてより感じたことは、自分の扱う物は環境という大きな循環にある生きた材であること。自分はそのに、ひとが親しみを持てる道具となるよう手を加え、後は使うひとが暮らしの中で育てていけるように、橋渡しの役であること。

木の仕事と共に、その背景にまで誘える膨らみのある場作り、そして、マキノを感じとれるひとつの場となれるよう、具現化に時間をかけてでも倦まず弛まず努力していきたいと思えます。

<https://www.souboucraft.com/>



山本 雄次

レーザー担当／鈴木扇子店 代表 鈴木 久人

高島扇骨は江戸時代、高島市内を流れる安曇川に植えられた竹を使い、冬の農閑期の仕事として始められたと伝えられています。扇骨は両外側の2枚を「親骨」、内側を「仲骨」とい、34以上もの工程を職人たちの分業体制によって製造されています。

竹を切る・削る・磨くといった熟練の技を要し、その扇骨を用いた扇子はほどよく手になじみ、竹がしなった優しい風を生み出します。近年は扇骨だけではなく、滋賀ならではの絵柄を貼ったオリジナル扇子の製品化も推進。伝統の技術をしおりやランプシェードなどにも活用し、技の継承や後継者の育成に取り組んでいます。

〒520-1212 滋賀県高島市安曇川町西万木 243-6

<http://www.suzukisensu.com/>



鈴木 久人